

2025 年度「公開教養講座」開講日程・講義概要・講師プロフィール

開講日程(1 頁)／講義概要(1 頁)／講師プロフィール(2 頁)



2025年度「公開教養講座」開講日程

会場:DMG MORIやまと郡山城ホール「レセプションホール」 13:30～16:30

開講日	時間帯	講師・テーマ
10 月 16 日 (木)	13:30～14:55	平林章仁先生「神武天皇伝承の古代史―神武天皇と吉野川流域―」
	15:05～16:30	鈴木喜博先生「国宝・聖林寺の十一面観音像」
10 月 23 日 (木)	13:30～14:55	田辺征夫先生「飛鳥寺から元興寺へ ―日本最初の本格的寺院とその後の展開―」
	15:05～16:30	甲斐弓子先生「古代朝廷・瀬戸内海を治める―瓦と木簡から見えるもの―」
10 月 30 日 (木)	13:30～14:55	寺澤薫先生「纏向遺跡が語る国家形成のすがた」
	15:05～16:30	松村洋子先生「一生に一度は訪れてほしい観光スポットとその魅力」

受講料 一般 8,000 円 奈良フェニックス大学 OB・OG 7,000 円

講義概要

①神武天皇伝承の古代史―神武天皇と吉野川流域―

初代天皇である神武の伝承は物語的で、謎が多く、歴史事実を読み取ることは困難と考えられてきた。神武天皇の物語における吉野川流域での出来事から、その謎の一端を解き明かす。

②国宝・聖林寺の十一面観音像

もと大神神社の神宮寺伝来。明治の神仏分離で、聖林寺に移された奈良彫刻の名品。その魅力を語るとともに、廃仏毀釈に至る近代史の一端を紹介する。

③飛鳥寺から元興寺へ―日本最初の本格的寺院とその後の展開―

日本最初の本格的寺院である飛鳥寺は、四天王寺・法隆寺などとともに 7 世紀の「日本国」成立期の仏教思想の中核的役割を果たすと同時に、新しい各種文化の拠点でもあった。平城京遷都とともに元興寺として天平仏教文化の重要な役目を担うが、都が京都に遷ってから、徐々に衰退し、その寺地の大半は浸食され、結果、皮肉にも近世の奈良町の成立となった。

④古代朝廷・瀬戸内海を治める―瓦と木簡から見えるもの―

古代より瀬戸内海は重要な航路(路)であることには違いありません。その拠点となる処がなぜ、どのように出来上がったかは未だ未知なこともあります。手掛かりを示す遺物・遺跡等での発見もまたあります。

⑤纏向遺跡が語る国家形成のすがた

桜井市の三輪山麓に展開する広大な古代都市・纏向。3 世紀に忽然として出現したこの遺跡こそが私たちがヤマト王権と呼んできた政体の最初の大王都である。半世紀にわたる発掘調査と研究の成果を紹介し、纏向遺跡が日本国家の誕生を考えるうえで、東アジア史、国家形成史の上でも注目すべき重要な遺跡であることを説明する。

⑥一生に一度は、訪れてほしい観光スポットとその魅力

みんながよく知っている観光スポットでも、見方を変えたらこんなにもおもしろくなります。奈良は古い物ばかりではなく、現在の技術が詰まったハイブリットの良さもたくさんあります。そして、奈良の良さは社寺だけではなく、どこにも負けない美しい自然だと思いませんか！

講師プロフィール

平林章仁 先生 元・龍谷大学教授

- ◇1948年奈良県生まれ。龍谷大学文学部卒業。博士(文学)。専門は、古代の政治・文化・社会・宗教の歴史
- ◇文献史料をはじめ、考古学・歴史地理学・民俗学・神話学・文化人類学などの成果も援用して、日本古代の政治・文化・社会・宗教などについて、実像の解明を目指している。
- ◇単著に、『鹿と鳥の文化史』、『橋と遊びの文化史』、『蘇我氏の実像と葛城氏』、『セタと相撲の古代史』、『三輪山の古代史』、『七世紀の古代史』以上白水社、『神々と肉食の古代史』吉川弘文館。『謎の古代豪族葛城氏』祥伝社、『「日の御子」の古代史』塙書房、『天皇はいつから天皇になったか?』祥伝社、『蘇我氏の研究』雄山閣、『蘇我氏と馬飼集団の謎』祥伝社、『物部氏と石上神宮の古代史』和泉書院、『雄略天皇の古代史』、『神武天皇伝承の古代史』志学社。共著に『日本書紀の読み方』講談社、『日本古代の政治と宗教』同成社、『古事記を読む』、『人と動物の日本史 4』吉川弘文館、『環境と心性の文化史 上・下』日本古代の宗教と伝承』勉誠出版、『狩猟と供犠の文化誌』森話社、『三輪山と古代の神まつり』学生社、『神話研究の最先端』笠間書院、『巫・占の異相』志学社など

鈴木喜博 先生 奈良国立博物館名誉館員

- ◇東北大学大学院文学研究科美学美術史学修了。奈良県教育委員会、大和文華館、文化庁、奈良国立博物館(上席研究員、修理指導室長)を経て、同館名誉館員。専門は、日本美術史、おもに日本彫刻史
- ◇著書・論文に、「檀像の概念と栢木の意義」(講談社版『日本美術全集』)、『仁王像大修理』共著(朝日新聞社)、『宿院仏師』(至文堂『日本の美術』)、『日本美術史ハンドブック』共著、「古代の木彫仏の展開—木仏師の系譜をたどる」(『歴史読本』)、「平城京の木の仏像 奈良時代木彫論」(『別冊太陽 平城京』)、『対比で見る日本の仏像』(パイインタナショナル)

寺澤薫 先生 桜井市縄向学研究センター所長

- ◇1950年東京都生まれ。1973年同志社大学文学部文化学科(文化史学専攻)を卒業。その後、奈良県立橿原考古学研究所の所員として発掘調査・研究に携わる。2012年4月から奈良県桜井市に設立された縄向学研究センター所長に就任
- ◇主要な研究テーマは、考古学視点からの国家形成史、農業史、比較文化史。縄向遺跡についても重要な見解を展開。とくに弥生時代や縄向型前方後円墳、出現期古墳に関する研究では第一人者であり、土器様式に関して「布留0式」を提唱した。
- ◇著書に、『卑弥呼と大和王権』中公選書 中央公論新社(2023年)、『弥生国家論—国家はこうして生まれた—』敬文舎(2021年)、『弥生時代国家形成史論』吉川弘文館(2017年)、『弥生時代の年代と交流』吉川弘文館(2014年)、『王権と都市の形成史論』吉川弘文館(2011年)、『青銅器のマツリと政治社会』吉川弘文館(2009年)、『考古資料大観』第10巻(弥生・古墳時代の遺跡と遺構)(編著)小学館(2004年)、『日本の歴史02巻 王権誕生』講談社(2000年)、『最新邪馬台国事情(共著)』白馬社(1998年)など

田辺征夫 先生 公益財団法人元興寺文化財研究所所長

- ◇1944年三重県生まれ。慶應義塾大学卒業、京都大学大学院文学研究科修士課程中退。奈良国立文化財研究所において古代都城・寺院などの発掘調査研究に従事。文化庁美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館考古課長、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所所長、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所所長、奈良県立大学特任教授、公益財団法人大阪府文化財センター理事長、一般財団法人仏教美術協会理事長などを経て、現在、公益財団法人元興寺文化財研究所所長
- ◇著書に、『平城京の時代(古代の都)』(共編著, 2010年)、『歴史考古学大辞典』(共編著, 2007年)、『平城京街とくらし(教養の日本史)』(1997年)、『遺跡が語る古代史(教養の日本史)』(1996年)、『平城京を掘る—地中からのメッセージ』(1992年)、『発掘のロマン最前線』(1993年)など

鈴木喜博 先生 奈良国立博物館名誉館員

- ◇東北大学大学院文学研究科美学美術史学修了。奈良県教育委員会、大和文華館、文化庁、奈良国立博物館

- (上席研究員、修理指導室長)を経て、同館名誉館員。専門は、日本美術史、おもに日本彫刻史
- ◇著書・論文に、「檀像の概念と栢木の意義」(講談社版『日本美術全集』)、『仁王像大修理』共著(朝日新聞社)、『宿院仏師』(至文堂『日本の美術』)、『日本美術史ハンドブック』共著、「古代の木彫仏の展開ー木仏師の系譜をたどる」(『歴史読本』)、「平城京の木の仏像 奈良時代木彫論」(『別冊太陽 平城京』、『対比で見る日本の仏像』(パイインタナショナル))

甲斐弓子先生 帝塚山大学考古学研究所特別研究員

- ◇大阪府生まれ。帝塚山大学教養学部卒業。帝塚山大学大学院博士後期課程修了。博士(学術)。帝塚山大学考古学研究所特別研究員
- ◇留学先はアメリカ。卒業後ベルギーで起業。ベルギー王国より王冠勲章受章(1996年)
- ◇1999年「大津市国の重文見送幕」をベルギーで復元完成(この見送幕は、約500年前にベルギーで制作されたタペストリーで、ベルギーで復元レプリカを制作)。大津歴史博物館で見送幕完成セレモニーを大使・総領事のご臨席のもと行った。
- ◇著書に、『わが国古代寺院にみられる軍事的要素の研究』(雄山閣)、『平城京を歩く』(森郁夫と共著、淡交社)、『僧寺と尼寺』(森郁夫と共著、帝塚山大学出版会)、『鎮めとまじないの考古学』(森郁夫と共著、雄山閣)
- ◇日本考古学協会会員、日本宗教文化史学会会員、日本ベルギー協会会員

松村洋子 先生 奈良県公認ツアーエキスパートの会代表

- ◇1984年奈良SGGクラブに入会、1998年より奈良SGGクラブ副会長(18年間)。2016年に退任し、名誉会員。2016年より、奈良県公認ツアーエキスパートの会代表
- ◇奈良県との協働事業として、外国からのお客様が目的別に奈良を楽しんでいただけるように、コース別マップ(各14コース)関空からのトランジットコースマップを作成
- ◇平城遷都1300年祭に向けて外国からのお客様向けの同行ガイド立ち上げに協力。開催期間中はガイド
- ◇外国からのお客様が、地図を片手にガイドなしでも歩けるようにとの趣旨で、発行されているフリーペーパー「naranara」の発起人でアドバイザーとして取材や原稿等に協力
- ◇ロンドンの「InsightGuide」社の許可を得て、「Nara Insight Guide」を出版(2017年1月)
- ◇2016年奈良県観光事業功労者表彰。元・観光庁多言語解説整備事業監修者。関西広域連合協議会・観光部門委員。2022年9月ユニバーサルデザインアドバイザー認定